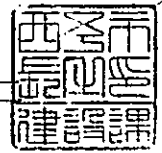




西予建収第 730 号
平成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長様

西予市長 三好幹二



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で照会のあった標記の件について、別紙
のとおり提出します。

道路特定財源をもつての道路整備については、都市部と地方部において意見が大きく分かれ、都市部においては整備がすすんでいるためかこれ以上の投資は必要ないとされる一方、地方においてはまだまだ整備率が低く、引き続き道路の整備が望まれている。

今日迄、人口の集中度で投資額が大きく異なっていたため、どうしても地方部の整備が遅れてきた経緯がありますが、今後は疲弊する地方の活力向上及び、都市部への一極集中を改善する意味も含め地方部への道路投資を大幅にシフトさせていただきたい。

整備内容としましては、高規格道路や大規模トンネルの事業も必要ですが、幅員狭小で早急な改良が望まれている地域では局部改良及び1.5車線の改良を推し進めていただくとともに、自治体の補助枠（交付金事業）を増して地方部に光を当てていただきたい。

また、ソフト面では本州四国連絡橋（3ルート）の通行料金を一般道路並に引き下げ、多額の投資を行って整備した橋のメリットを、国民の誰もがその恩恵を受けられる体制をお願いします。

○現状

四国横断自動車道西予・宇和インタの開通により西予市が本州四国連絡橋を經由して中国、近畿及び国内の高速道路網で直接結ばれ、当地域の新たな飛躍が期待されているが、インタチェンジまでのアクセス道路の整備が遅れているため、高速道路の有効活用ができていない現状であります。

○課題

高速道路へのアクセスとなる基幹道路は国道56号であります。西予市宇和町の市街地は朝夕を中心に慢性的な渋滞をきたしており、今後期待されている観光振興、産業の活性化、圏外交流促進の面からも大きな障害となっています。そこで、宇和町市街地の拡大及び国道56号の渋滞緩和のため、都市計画道路網の整備を図っていくことが今後の課題であります。又、他のアクセス道路の未整備箇所につきましても一日も早く整備しネットワークの構築を図りたい。

西予市は愛媛県の南部に位置し中世期まで南予の中心地として栄えた町であり今もなお中心地としての風格を備えた町であると自負しています。西予市内は中心を国道56号が縦貫しており、宇和川に沿って開けた縦長の町であるが故に国道56号の利用度は多大であり、渋滞が日常的におきています。現在の市街地を変えていくためには国道を補完するバイパスが不可欠であり、西予市宇和地区の都市計画の中に位置づけた路線の整備が必要となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 4

愛媛県 西予市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	西予宇和IC周辺整備	高速道路の延伸により西予市の位置づけ・イメージが大きく変わり、田舎の町から脱皮しつつある。また、中国・近畿はもとより、遠く関東圏と直接結ばれたことにより利便性が一段と向上した。今後、都市基盤整備(ICまでのアクセス)を実施するとともに企業誘致を進め、産業の活性化を図ることで若者の定住を促進したい。そのことが、結果、地域活力向上につながる。	
水害等の災害に強い国土づくり	海岸部及び山間部における部分改良	市内を通っている国道は4路線ありますが、特に378号はリアス式海岸に沿って走っているためカーブの続く線形で、さらに地形上未改良の区間が多い路線であります。その為、日常の生活及び地場産業である農水産物の運搬にも支障がありますが、さらに災害時には他に迂回路が無く陸の孤島になることも度々です。全面改良には莫大な経費と時間が掛かるため局部改良を実施することで、災害時の孤立化を低減できる。	